

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2026.5.31 発行

vol.145



成田キャンパス入学式(国際医療福祉大学成田病院 成田国際ホールにて)

特集

令和8年度 入学式／令和7年度 学位記授与式

新任のごあいさつ

「医療と消費税に関するシンポジウム」開催



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

02	特集 令和8年度 国際医療福祉大学 入学式
06	特集 令和7年度 国際医療福祉大学 学位記授与式
10	新任のごあいさつ
14	杉原素子先生を偲ぶ会／ 福井トシ子副大学院長 インタビュー
16	海外保健福祉事情
18	2025年度 博士課程修了者・ 論文博士合格者一覧
19	トピックス 国際医療福祉大学インター メッド病院がモンゴルで始動
20	トピックス 市川総合病院開院／ 福岡国際音楽大学開学／ 堤治名誉病院長送別会／ 堀口淳教授ご退任記念祝賀会
22	特集 医療と消費税に関する シンポジウム
24	2025年度 国家資格試験結果／ 寄附のお願い

令和8年度 国際医療福祉大学 成田キャンパス入学式 式辞

2026年4月12日
国際医療福祉大学成田病院成田国際ホールにて



豊かな人間性と専門性を備え世界で活躍する医療人に

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これまで新入生の皆様を支えてこられた保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。本学は1995年、日本初の医療福祉の総合大学として栃木県大田原市に開学し、昨年開学30周年を迎えました。5学科からスタートした本学も、現在では全国に5キャンパス11学部27学科を展開し、学びの領域は医療福祉のほぼすべてをカバーするまでに成長しました。学生数は学部と大学院をあわせて約11,000人、開学以来の卒業生は約39,000人を数え、多くの卒業生が医療福祉分野の第一線で活躍しています。本日は本学がどのような理念をもとに誕生し、発展してきたのかを少しお話ししたいと思います。

私が大学設立を志した当時、日本の医療は医師中心であり、看護師やリハビリ専門職などはいわゆる「パラメディカル」と呼ばれていました。しかし私は、これからの医療は医師だけでは成り立たず、多職種が連携して患者様を支える「チーム医療・チームケア」が必要になると考えていました。実際、欧米では理学療法士や看護師なども高度な大学教育を受け、専門性を発揮していました。一方、日本では専門学校教育が中心であり、医療福祉専門職の社会的地位も十分ではありませんでした。そのため私は、医療と福祉を総合的に学ぶ新しい大学を民間の力で実現しようと考えたのです。

開学にあたっては、各職能団体のトップやWHO関係者など多くの方々から支援を受けました。また、初代学科長には、日本で初めて言語聴覚士や作業療法士の教育に携わり、各分野を牽引してきた草分け的存在の先生方を集めました。本学が今日まで発展してこれたのは、こうした日本の医療福祉を切り拓いてきた先人たちの力によるところが大きいと思っています。現在も本学には、職能団体を代表する教員が多数在籍しています。それが高い国家試験合格率や就職率を維持する1つの大きな要因でもあります。

その後、「チーム医療の船長」である医師を育てる医学部も必要であると考え、医学部設置に向けて長年にわたり取り組んできました。2017年に成田キャンパスに設置した医学部では、統合型カリキュラムや世界最大級のシミュレーションセンターでの実習を導入し、世界水準の医学教育をめざしています。また、7つの附属病院と約65の関連施設を擁し、学生の実習施設が充実していることも本学の強みです。現場での実践教育こそが、優れた医療人を育てると考えているからです。

さらに私は、これからの時代に必要なのは「国際性」だと考えています。本学では、ベトナム、モンゴル、カンボジア、インドネシア、ブータンなど各国から留学生を受け入れ、フルスカラーシップ制度によって学費や生活費を支援しています。卒業後は日本だけでなく、それぞれの国に戻り、自国の医療発展に貢献することを期待しています。近年では、本学卒業生の日本の医師免許がインドネシアでも正式に認められるなど、本学の国際的な評価も高まっています。

日本は今後、人口減少や高齢化によって大きく社会構造が変化していきます。その中で医療福祉を支えるためには、国際的視野を持った医療人材の育成が不可欠です。新入生の皆様には、勉強だけでなく、スポーツや課外活動にも積極的に取り組み、国内外を問わず多くの仲間と交流しながら豊かな人間性を育んでほしいと願っています。そして将来、日本のみならず世界で活躍する医療人となることを期待しています。最後に、改めてご入学を心よりお祝い申し上げます。



共生、チーム医療、国際協力の理念のもと 「愛され、選ばれる」大学に

国際医療福祉大学成田キャンパス新入生の皆様、入学誠におめでとうございます。

Hearty welcome you all to our in Narita Campus!

今年度は、医学部143人、成田薬学部124人、成田看護学部109人、成田保健医療学部327人の学部生と、介護福祉特別専攻科へ13人の専攻科生、成田キャンパスの大学院生44人の計760人が入学されました。

本学は、2025年に開学30周年を迎えましたが、建学の礎となった患者様や障害のある人との「共生」、医師だけでなくさまざまな医療職種が等しく協働して行う「チーム医療」、そしてアジアを中心とした地域との交流に立脚した「国際協力」という、確固たる理念をさらに発展・進化させ、地域はもとより、学生や教職員、患者様や外国の方にも「愛され、選ばれる」大学づくりをめざしたいと思います。

私からは、新たに大学生活を始める皆様に、3つの言葉を贈ります。



研究の本質を見極め、自らの手で新たな 知を切り開いてほしい

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。この良き日を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。ご家族をはじめ、新入生をこれまで支えてこられた方々にも、心よりお祝い申し上げます。この度、大学院においては博士課程98人、修士課程293人、専門職学位課程16人の計391人、ここ成田キャンパスには博士課程19人、修士課程22人、専門職学位課程3人の計44人が入学されました。

本学は昨年開学30周年の節目を迎え、11月には発祥の地である大田原キャンパスを中心に、多くの方々のご支援のもと、素晴らしい記念式典が開催されました。大学院もその規模を拡大させるとともに、研究・教育環境を充実させてきました。仕事を持つ方々にも十分な研究環境を提供できますよう、さまざまな配慮を行っており、大学卒業後すぐに進学した院生はもとより、すでに医療福祉の現場で働いておられる社会人の院生

まずは、Transition(移行)です。皆様は親で庇護される存在から、自分で責任を取る大人への過渡期、準備期間に入りました。責任を取らなくていい方法は「何もしない」ことですが、何もしなければ、成長もしないし成し遂げる喜びもありません。決められた枠の中だけに閉じこもらず、ぜひ外に歩み出してこの大人への過程を楽しんでください。

次に、Diversity(多様性)です。ダーウィンは「強いものが生き残るのではない、環境に適応するものが生き残るのだ」といっていますが、恐竜の絶滅からもわかるように、多様でない社会は変化に脆弱なのです。医療には人工知能やロボティクスが導入され始めていますが、多様な患者様の必ずしも表に現れてこない痛みや不安を聴き出し、寄り添えるのは、多様性を理解できるヒトであるあなたがた医療従事者だけです。

最後に、Challenge(挑戦)です。皆様が今まで闘ってこられた「受験戦争」は、わかっている答えにいかにも早く正確にたどり着くかを競うものですが、これからは正解のわからない問いにどのように取り組み続けるのか、というのが職業人生における最大の課題です。失敗を恐れず、成功に溺れない。これができるかどうかで「皆様のこれから」の過程が決まるといっても過言ではありません。

このキャンパスで、何でも話せる同級生や先輩、時には厳しくも愛情を持って指導してくれる先生方など、刺激に富んだ学問や環境と新たに出会い、職業人としての第一歩を踏み出すことになります。しかし、初めて親元を離れたり、友人と別れたりし、不安もあるでしょう。しかし恐れることはありません。私達教職員は、そんな皆様を全力で支えるために、ここにいるのです。本日夢と勇気と希望をもって、人生の新しいページに踏み出された皆様の、今後のご活躍とご健闘を心から祈念いたします。

本日は本当に、おめでとうございます! Congratulations you all!

も数多く学んでおり、これまでの修了者数は5,500人を超えています。

皆様がこれから取り組まれる研究とは、未知の領域を切り開き真理を探究する営みです。その過程で重要なのは、本質的な問題・課題を見極める洞察力と探究心、そして、地道に誠実に、試行錯誤を重ねる粘り強さです。研究は思い通りに進まないことの方が多いものです。それでもなお問い続け、試行錯誤を重ねる中で、新しい発見が生まれ、研究者として成長できます。

その一方、科学技術は急速に発展し、技術の進歩により研究環境は向上しています。かつては膨大な時間を要した文献調査やデータ分析なども、今では各種ツールやAIの助けを借りて効率的に進めることができます。しかし、こうした利便性の向上は決して研究の本質を変えるものではありません。便利なツールを有効活用することは必要ですが、それに過度に依存し、自ら考え創造する力を失うことがあってはなりません。ぜひ目の前の便利さに惑わされることなく、研究の本質を見極め、自らの手で新たな知を切り開いてください。

学位取得の過程は必ずしも平坦ではないかもしれませんが。社会人として働きながら研究を進めていかれる大学院生は、不安を感じられることがあるかもしれません。その際に強い支えとなる指導教員とは、日頃から積極的に連絡と連携を取っていただきたいと思います。修士・博士の学位を取ることはもちろん重要ですが、ぜひそれに留まらず多くのことを吸収していただき、視野を広げ、複雑化する社会に立ち向かい、本学がめざしている建学の精神「共に生きる社会」の実現に貢献できる医療人・社会人になってください。

皆様、頑張ってください。

令和8年度 国際医療福祉大学入学式

大田原キャンパス

4月10日、大田原キャンパスにて入学式が行われた。柔らかな光に包まれた曇り空の下、大学院生を含む、1,012人の新入生が大田原の地で新たなスタートを切った。

式典では、鈴木康裕学長が「自然豊かで広大な本校でしっかりと学び、将来は医療や福祉のプロフェッショナルとして存分に活躍してほしい」と新入生らに激励の言葉を贈った。相馬大田原市長、佐野栃木県保健福祉部長からの祝辞をいただいた後、新入生代表の馬場野乃子さん（視機能療法学科）は「一人ひとりが互いに切磋琢磨し刺激し合いながら、本学の理念の一翼を担っていききたい」とこれからの学生生活に対して決意を示した。

（入試広報室 齋藤萌々花）



●馬場野乃子さん



●式辞を述べる鈴木学長

4月10日 那須アスリーナ

成田キャンパス

4月12日 国際医療福祉大学成田病院成田国際ホール

成田キャンパスの入学式が4月12日に行われ、医学部、成田看護学部、成田保健医療学部、成田薬学部、介護福祉特別専攻科、大学院の新入生計760人が入学した。

式典では、高木邦格理事長、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長の式辞の後、来賓の皆様より祝辞をいただいた。

新入生誓いの言葉では芳賀沼楓那さん（理学療法学科）が「保健医療福祉の世界に携わり自らがめざす医療を実現するために、専門知識と高度な技術を身につけ、積極的に挑戦し続ける」、ナンディン エルデネさん（医学部奨学生・モンゴル）は「将来、母国の医療に貢献できる医師になれるよう一生懸命に学ぶ」、福井淳平さん（大学院博士課程医学研究科）は「臨床で生じる疑問の解決を見出す姿勢と自ら新たな課題を見出し研究する姿勢の双方を大切に、実社会に還元できる知見を得ることを目標とする」と決意を語った。

（広報 竹下登紀子）



●ナンディン エルデネさん

東京赤坂キャンパス

4月7日 講堂

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部137人および大学院273人、計410人の新入生が新たな門出を迎えた。

式では新入生代表が力強く決意を表明。学部代表・心理学科の山崎陽聖さんは、「感謝を忘れず力に変え、同じ夢を持つ仲間たちと共に、日々精進してまいります」と抱負を語り、大学院代表・医学専攻の吉田希和子さんは、「医療未到達の領域に挑み、研究成果を臨床へ還元したい」と決意を表明した。鈴木学長からは「多様性を理解できるのはAIではなくヒトである。ヒトは失敗からしか学ばません。失敗を恐れず、成功に溺れない医療人となってほしい」と激励の言葉が贈られた。

（事務部 富崎知尋）



●山崎陽聖さん



●吉田希和子さん

小田原キャンパス

4月6日 城内校舎体育館

4月6日、小田原キャンパス城内校舎にて小田原保健医療学部および大学院の入学式が挙行された。今年度は、学部新入生215人（看護学科90人、理学療法学科84人、作業療法学科41人）と小田原・熱海キャンパスに所属する大学院新入生14人が新たな一歩を踏み出した。

式典では、鈴木学長、矢富大学院長による式辞に続き、加藤憲一小田原市長より祝辞を賜った。その後、学部新入生代表の星谷佳穂さん（理学療法学科）、大学院新入生代表の奥村勇人さん（修士課程）が力強く「誓いのことば」を述べた。最後に鈴木学長より壇上の教員の紹介が行われ、式は滞りなく終了した。

数日前の予報では天候が危ぶまれていたが、当日は麗らかな晴天に恵まれた。満開を過ぎた桜も新入生の門出を祝うかのように踏み止まり、春の彩の中で晴れやかな式典となった。

（総務課 下村達典）



●星谷佳穂さん

大川キャンパス

4月3日 講堂

大川キャンパスでは4月3日、福岡保健医療学部・福岡薬学部に376人、大学院に20人の新入生を迎えて、入学式を執り行った。

式典では、高木理事長、鈴木学長、矢富大学院長の式辞の後、江藤義行大川市長、秋田章二福岡県議会議員より祝辞をいただき、作業療法学科の神原美日菜さんが「私は本学の説明会で作業療法士の魅力と役割に深く心を動かされ、この道を志すことにしました。私たち新入生はこれから困難や壁にぶつかることもあると思いますが、建学の精神にあるように『共に生きる社会』の実現をめざして、自覚と誇りを持ち乗り越えていきます」と誓いの言葉を述べた。

（広報 帆足リエ）



●全員で校歌を斉唱



●神原美日菜さん

国際医療福祉大学 塩谷看護専門学校 卒業式・入学式

卒業式

3月6日、春の訪れを感じる穏やかな良き日に、本校講堂にて令和7年度卒業式が挙行された。

国際医療福祉大学の鈴木康裕学長の式辞に続き、矢板市の森島武芳市長からご祝辞をいただいた。看護の道を志し、共に切磋琢磨し合った32名の卒業生が、誇らしげな表情で学び舎を後にした。式典では一人ひとりの名前が読み上げられ、小見山智恵子学校長から卒業証書を受け取る卒業生の顔には、これからの看護師としての覚悟が表れていた。

卒業生代表の市村康文さんは、「私たちのクラスは、本当に大切なときには必ず誰かが手を差し伸べてくれる、そんな強みを持ったクラスでした。実習で自信を失いかけたときや国家試験を目前に控え不安で押しつぶされそうになったときは、みんなの言葉が支えとなりました。この仲間と出会ったことを誇りに思います。」と答辞を述べた。

32名がそれぞれの場所で、優しく、強く、輝かしい看護師へと成長していくことを確信している。今後の前途を祝し、心からのエールを送りたい。

（教務部 常角洋子）



●答辞を述べる市村康文さん



●卒業生一同による記念撮影

入学式

満開の桜を少し過ぎた、4月9日、本校講堂にて入学式が執り行われ、今年度より新たに導入した、総合型選抜入学試験・指定校高校推薦入学試験で合格した学生を含む41人が入学となった。

小見山智恵子学校長が、チームワークの大切さや、「確かな知識と技術、看護師にふさわしい態度で、心温まる看護を提供できるよう、一緒に学び、研鑽してまいりましょう」と激励の言葉を贈った。

続いて、3年生の宇梶あかりさんからは「看護を学ぶ中では、教科書だけでは得ることができない多くの学びがあること、実習で出会う患者様との関わりや、日々の授業の中での気づきは、皆さんの看護観を形成する大切な経験となるはず」と今までの経験から得られた学びを歓迎の言葉とした。

その他にも来賓の方々から激励の言葉をいただきそれを受け、新入生代表の日下部鈴さんからは「学べるのが当たり前でないということを理解して、家族や先生方など私たちを支えてくれるすべての方々に感謝を忘れず、医療従事者になる自覚を肝に銘じて立派な看護師をめざすことを誓います」と強い決意が述べられた。

私たち教職員一同も、学生一人ひとりに真剣に向かい合い寄り添っていくこと、気持ちを新たに誓った式でもあった。

（教務部 出井美恵子）



●誓いの言葉を述べる日下部鈴さん



●在校生代表の宇梶あかりさん

令和8年度 学部・大学院・特別専攻科 新入生概要

学部新入生概要

キャンパス	学部	学科	入学者数
大田原	保健医療学部	看護学科	121
		理学療法学科	101
		作業療法学科	84
		言語聴覚学科	72
		視機能療法学科	53
		医学検査学科 [2025.4開設]	85
		放射線・情報科学科	115
	医療福祉学部	医療福祉・マネジメント学科	136
	薬学部	薬学科	205
	大田原キャンパス合計		972
成田	医学部	医学科	143
	成田看護学部	看護学科	109
	成田保健医療学部	理学療法学科	86
		作業療法学科	43
		言語聴覚学科	43
		医学検査学科	91
		放射線・情報科学科	64
	成田薬学部	薬学科	124
	成田キャンパス合計		703
東京赤坂	赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	心理学科	73
		医療マネジメント学科	64
	東京赤坂キャンパス合計		137
小田原	小田原保健医療学部	看護学科	90
		理学療法学科	84
		作業療法学科	41
	小田原キャンパス合計		215

キャンパス	学部	学科	入学者数
大川	福岡保健医療学部	看護学科	67
		理学療法学科	70
		作業療法学科	29
		医学検査学科	89
	福岡薬学部	薬学科	121
大川キャンパス合計			376
全学部合計			2,403

大学院新入生概要

課程	研究科	専攻	入学者数
修士課程	医学研究科	公衆衛生学専攻（専門職学位課程）	16
		保健医療学専攻	169
	医療福祉学研究科	医療福祉経営専攻	72
		臨床心理学専攻	35
	薬科学研究科	生命薬科学専攻	1
	修士課程合計		293
博士課程	医学研究科	医学専攻	29
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	65
	薬学研究科	医療・生命薬学専攻	4
博士課程合計			98
大学院合計			391

特別専攻科新入生概要

特別専攻科	入学者数
介護福祉特別専攻科	13

令和7年度 国際医療福祉大学学位記授与式

大田原キャンパス

3月9日 那須アスリーナ

3月9日、大田原キャンパスの学位記授与式が那須アスリーナにて執り行われた。3学部8学科の学部生793人、大学院修了生23人に学位記が授与された。

鈴木康裕学長は式辞で、「夢を広く大きく持ちながら新しい環境に果敢に対応し、人生の勝ち組として試練を乗り越えていただきたい」と激励の言葉を贈った。鈴木学長、矢富大学院長の式辞の後、来賓の相馬憲一大田原

市長、岩佐景一郎栃木県保健福祉部長らから祝辞が述べられた。

また、卒業生を代表して須田有咲さん(保健医療学部作業療法学科)は「志を同じくする仲間と支え合いながら過ごした時間は、何物にも代え難い財産になった」と謝辞を述べ、今後の決意を語った。

厳かな中にも温かみの溢れる式を終え、総勢816人が新たな道へと歩み出した。

(入試広報室 齋藤萌々花)



●卒業生を代表し謝辞を述べる須田有咲さん

成田キャンパス

3月15日 国際医療福祉大学成田病院国際ホール

成田キャンパスの学位記授与式が3月15日、国際医療福祉大学成田病院国際ホールにて執り行われた。医学部126人、成田看護学部105人、成田保健医療学部287人、大学院博士課程13人、修士課程26人の計557人に学位記が授与された。また、介護福祉特別専攻科22人に修了証書が授与された。

鈴木学長の式辞に続き、謝辞では、大西渉さん(学部代表)が「本学で培った豊かな人間性と確かな知識を胸に、生涯学び続ける」、医学部留学生のジン・ウー・フラインさん(奨学生代表)は「日本と母国、世界をつなぐ架け橋となれるよう、目の前の患者様一人ひとりに真摯に向き合い続ける」、加納裕遵さん(大学院代表)は「社会の中で自らの専門性を生かしながら、人々の生活と社会の課題に誠実に向き合う」と志を新たにした。

(学生課 城貴弘)



●奨学生代表のジン・ウー・フラインさん

小田原キャンパス

3月13日 本校舎講堂

小田原保健医療学部・大学院の学位記授与式が3月13日に行われた。この日、学位記を授与されたのは学部生190人(看護学科84人、理学療法学科68人、作業療法学科38人)と大学院修了生19人(博士課程5人、修士課程14人)。

式典では、学部卒業生代表として山仲智子さんと、大学院修了生代表として成田逸人さんに学位記が授与された。

各学科の学長賞発表の後、鈴木学長、矢富大学院長の式辞に続き、来賓の安藤小田原副市長より祝辞をいただいた。その後、卒業生代表の田島小想さんと修了生代表の北野桂介さんがあいさつを行い、これまでの学びへの感謝や今後の抱負を述べた。

(総務課 村坂美希)



●鈴木学長から学位記を授与される山仲智子さん

東京赤坂キャンパス

3月14日 講堂

東京赤坂キャンパスにおいて、3月14日に学位記授与式が執り行われ、赤坂心理・医療マネジメント学部の卒業生110人(心理学科65人、医療マネジメント学科45人)、および大学院修了生263人(博士課程51人、修士課程190人、専門職学位課程22人)に学位記が授与された。

式典では、卒業生、修了生の代表がこれまでの学びへの感謝を述べた。また、優秀な成績を収めた卒業生には学長賞が授与された。学長からは「正解がないかもしれない問いに答える努力を行い、自分になりたい『医療人』をめざす道筋は、決して一人ではないということを忘れずにいてください。心と体の健康に留意し、胸躍る新しい地平に向けて大きく羽ばたいてほしい」との言葉が、大学院長からは「社会の期待に応えられる真の『知のプロフェッショナル』として活躍してほしい」との言葉が贈られた。(事務部 富崎知尋)



●学長賞を受賞した萩原結香さん

大川キャンパス

3月11日 講堂

大川キャンパスでは、3月11日、福岡保健医療学部・福岡薬学部ならびに大学院・別科の学位記授与式を厳かに執り行い、学部生292人、大学院生39人、別科生7人に学位記を授与した。

式典では、本学一期生となる薬学科をはじめ、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科の成績最優秀者に学長賞が、博士課程および修士課程修了生には大学院長賞がそれぞれ授与された。また、鈴木学長、矢富大学院長、高木理事長より、卒業・修了生の門出を祝し、今後の活躍に期待を寄せる式辞が述べられた。

謝辞では、言語聴覚学科の宇賀菜々美さん、修了生の森泉沙紀さんが登壇し、卒業生・修了生を代表して感謝の思いを表した。(学生係 副島裕之)



●学位記を授与される卒業生総代の中原伶さん

大学院生総代 大学院長賞

大学院生総代・大学院長賞

医学研究科 博士課程
医学専攻 臨床医学研究分野

永井 瑞紀

このたびはこのような名誉ある賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。ご指導いただきました鈴木翔教授、石橋史明教授ほか、諸先生方や支えてくださったスタッフの皆様、家族に心より感謝申し上げます。

大学院では消化器内科領域、特に内視鏡診療に関する研究に取り組み、困難に直面することもありましたが、多くの先生方のご指導のもと本課程を修了することができました。日々の臨床で生じる疑問を研究として深める経験は、医師としての視野を広げる貴重な機会となりました。

本学での学びを礎として、さらに研鑽を積み、医学の発展と患者様にとってより良い医療の実現に貢献できるように努めます。



大学院生総代・大学院長賞

医療福祉学研究科 博士課程
保健医療学専攻 臨床検査学分野

東 靖之

血清アルブミンに関する研究では、実験およびデータ解析に試行錯誤を重ね、臨床的意義を探究してまいりました。成田保健医療学部の清宮教授の的確なご指導のもと研究を遂行できましたことに深く感謝申し上げます。また、試料ならびに検査データの収集にご協力いただいた高木病院検査技術部の皆様にも心より御礼申し上げます。

大学院で培った知見を礎に研鑽を重ね、研究と後進の育成に努め、学術の発展に寄与してまいります。



大学院生総代

医療福祉学研究科 博士課程
保健医療学専攻 言語聴覚分野

佐藤 文子

大学生時代、恩師から「博士をめざして頑張りなさい」と励ましの言葉をいただきました。言語聴覚士となって20年以上、その言葉に憧れを抱き続けてきましたが、このたびようやく長年の夢をかなえることができました。

この3年間は決して平坦な道のりではありませんでしたが、日々の臨床で抱えてきた疑問をさまざまな視点から検討する機会に恵まれ、非常に充実した時間を過ごすことができました。

諸先生方、研究にご協力くださった皆様、いつも励ましてくださった職場の皆様、そして家族に心より感謝いたします。



大学院生代表

医療福祉学研究科 博士課程
保健医療学専攻 作業療法学分野

加納 裕遵

研究とは単に答えを得ることではなく、問い続ける姿勢そのものに価値があるということ、大学院での経験を通して学ぶことができました。専門分野や背景の異なる仲間と共に学び、意見を交わし、互いの研究について真剣に語り合いました。臨床に携わりながら研究に取り組んできた作業療法士の一人として、大学院で学んだ探求の姿勢を大切に、今後も臨床と研究の双方から人々の生活を支える実践を積み重ねてまいります。



大学院生総代

医学研究科 博士課程
医学専攻 社会医学研究分野

熊澤 芽葉恵

感染症に対する人々のリスク認知と情報探索行動を明らかにするべく研究に取り組みました。実務と研究を両立させながら学びを深める道のりは決して容易ではありませんでしたが、指導教員の先生方をはじめ多くの方々のご支援により修了の日を迎えることができました。東京赤坂キャンパスで得た学びと出会いに深く感謝しております。

今後も、人々の感染症予防に資する研究を継続し、公衆衛生の発展に貢献するため研鑽を積んでまいります。



大学院生総代

医療福祉学研究科 修士課程
保健医療学専攻 理学療法学分野

成田 逸人

在学中、高齢者の閉じこもりに至る要因について研究を行いました。修士課程の2年間、社会人として勤務しながら研究を行うことは容易ではありませんでしたが、専門分野の知識を深める貴重な機会となりました。

久保見教授、齋藤孝義准教授をはじめ、多くの先生方より温かいご指導を賜り無事に修士課程を修了することができましたことを心より感謝申し上げます。本学で得た学びと経験を生かし、地域社会に貢献できるよう努めてまいります。



大学院長賞

医療福祉学研究科 修士課程
保健医療学専攻 臨床検査学分野

銚川 郁菜

このたびは、このような栄誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。本賞の受賞は、ひとえにご指導いただきました小荒田秀一教授、澁田樹准教授をはじめ、支えてくださったすべての皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

修士課程の2年間は、自身の実力不足を痛感する場面も多ありましたが、数多くの経験を重ねることができた、非常に貴重な時間でした。この受賞に恥じぬよう、今後もより一層精進してまいります。



大学院長賞

医療福祉学研究科 修士課程
保健医療学専攻 理学療法学分野

遠田 海佳

このたび、修士課程において大学院長賞を賜り、大変光栄に存じます。臨床と研究の両立は容易ではなく、多くの課題に直面いたしました。当初は研究に苦手意識もありましたが、懸命に取り組む中で、その面白さや意義を実感し、自身の強みを見出すことができました。これまで支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。本課程で得た学びを礎に、今後も研鑽を重ね、専門性の向上と社会への貢献に努めてまいります。



理事長賞・学長賞、卒業生総代

大田原キャンパス

学長賞・卒業生総代



医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科
山本 佳澄

学長賞



保健医療学部
作業療法学科
須田 有咲

学長賞



保健医療学部
放射線・情報科学科
秋元 凌輔

学長賞



保健医療学部
言語聴覚学科
新井 理香

学長賞



薬学部
薬学科
小野 春菜

学長賞



保健医療学部
看護学科
梁取 こころ

学長賞



保健医療学部
理学療法学科
菊地 陽奈子

学長賞



保健医療学部
視機能療法学科
吉田 真弓



東京赤坂キャンパス

学長賞・卒業生総代



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
心理学科
川井 若菜

本学での4年間は、授業やサークル活動などを通して、多くの学びや経験を得ました。心理学を学び、さまざまな人と関わることで、視野が広がり、自己理解が深まったと感じています。充実した大学生活を送れたのは、共に過ごした友人の存在があったからです。また、支えてくださった先生方や職員の方々、家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業後は、本学大学院に進学し、資格取得や心理職をめざしより一層努力してまいります。

学長賞



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
医療マネジメント学科
萩原 結香

私たちは新型コロナウイルスによる制限が緩和され始めた頃に入学しました。そのため、それ以前の数年は難しかった、対面での講義を受けることができ、疑問をすぐに質問できる環境で過ごすことができました。講義やサークル活動を通してさまざまな考えに触れ、学年や学科を超えた交流により、協調性の大切さを学びました。

4年間で経験したことを生かし、学び続ける姿勢を忘れず入職先で成長できるよう、精進してまいります。

小田原キャンパス

学長賞・卒業生総代



小田原保健医療学部
理学療法学科
山仲 智子

大学生活は、学びと挑戦に満ちた時間でした。この4年間は、自分の弱さや未熟さと向き合う時間でもあり、思うようにいかずに悩むこともありましたが、その経験一つひとつが自分を成長させてくれたと感じています。また、先生方や友人との出会いを通して、多様な価値観に触れ、視野を広げることができました。

これらの経験は、私にとってかけがえのない財産です。支えてくださったすべての方々への感謝を胸に、今後も努力を重ね、社会に貢献できるよう精進してまいります。

学長賞



小田原保健医療学部
看護学科
吉田 莉彩

学長賞



小田原保健医療学部
作業療法学科
田島 小想

理事長賞



医学部 医学科
**ジン・ウー・フライン
(Zin Oo Hlaing)**

私にとっての大学生活6年間は、学びと成長に満ちたかけがえのない時間でした。新たな言語と医学を並行して学ぶ挑戦は、想像より高いハードルでした。入学当初は、コロナ禍の影響でオンラインと対面授業のハイブリッドでしたが、教職員の方々や同級生たちの支えにより無事卒業を迎えることができました。病院実習では教科書だけでは決して学ぶことができない多くのことを、この身をもって体験することができました。

私たちはこの6年間で、医師にとって大切な知識や技術だけでなく、思いやりの心も身につけることができたと信じています。今後は国際的な医師として、本学で培った知識と経験を生かし、日々研鑽を重ねてまいります。

学長賞・卒業生総代



成田保健医療学部
放射線・情報科学科
大西 渉

4年間の大学生活は、数え切れないほどの学びと喜びに満ちた時間でした。特に印象深いのは、私たちの学年から本格的に再開された海外研修です。現地で世界の医療や福祉に直接触れた経験は、私の価値観を大きく広げてくれました。その後の臨床実習では、現場の厳しさや自身の未熟さに葛藤することもありましたが、指導者の方々から医療人に不可欠な「人を思いやる心」を学びました。

集大成となる国家試験では、重圧に挫けそうになった時もありましたが、同じ目標に向かって走り抜けた仲間がいたからこそ、乗り越えることができました。この4年間で培った確かな知識と豊かな人間性を胸に、これからも医療人として生涯学び続けていきたいと思っています。

学長賞



医学部
医学科
松田 悠

学長賞



成田看護学部
看護学科
宮内 累樺

学長賞



成田保健医療学部
理学療法学科
竹能 世那

学長賞



成田保健医療学部
作業療法学科
安井 芽依

学長賞



成田保健医療学部
言語聴覚学科
藤田 佳歩

学長賞



成田保健医療学部
医学検査学科
児山 愛依

学長賞・卒業生総代



福岡薬学部
薬学科
中原 伶

私たち福岡薬学部1期生は、コロナ禍の中、入学式もないままオンライン授業から学生生活をスタートしました。異例の始まりでしたが、試験や実習に向き合う日々を重ねる中で、気づけば6年の月日が過ぎ、本日無事に卒業の日を迎えることができました。

これもひとえに、私たち一人ひとりに真摯に向き合いご指導くださった先生方、共に学び支えた仲間、そして陰ながら見守ってくれた家族の存在があったからこそです。

私たちはこれからそれぞれの道へ進みます。国際医療

学長賞



福岡保健医療学部
理学療法学科
森 琴未

福祉大学福岡薬学部の1期生としての誇りを胸に、医療人として日々研鑽を重ね、社会に貢献していきたいと思っています。

学長賞



福岡保健医療学部
作業療法学科
田中 周

学長賞



福岡保健医療学部
言語聴覚学科
宇賀 菜々美

学長賞



福岡保健医療学部
医学検査学科
土井富 優佳

成田キャンパス

大川キャンパス

8 IUHW Public Relations Magazine

IUHW Public Relations Magazine 9

新任のごあいさつ

2026年4月付の新任役職者をご紹介します。

新たな顔ふれで、グループ教職員一丸となって教育・研究・医療の充実に努めてまいります。



学校法人国際医療福祉大学 専務理事(病院経営・医療安全担当)・研究支援センター長／国際医療福祉大学大学院・医学部 教授／国際医療福祉大学グループ産婦人科統括教授／医療法人財団順和会 総院長

藤井 知行

東京大学医学部卒、医学博士。東京大学産婦人科主任教授を経て、山王病院前病院長。2015年から4年間、日本産科婦人科学会の理事長。東大病院および山王病院で、ハイリスク妊娠を含む多くの妊娠・分娩管理の責任者を務めた。30年以上にわたり不育症治療を専門とし、その分野の日本のリーダーである。

このたび専務理事に就任し、病院経営、医療安全、研究支援を担当することになりました。同時に、医療法人財団順和会山王病院総院長として、順和会の4つの病院の運営を統括いたします。人口の減少や光熱費・医療材料の値上がりなどにより、病院経営は今後さらに難しくなると予想される一方、社会からの医療安全に対する目も厳しさを増しています。また、医師の地域偏在、診療科偏在のため、地方病院や特定診療科の医師確保が難しくなっており、医学部開学から9年が経過し研究力の向上も課題です。こうした多くの問題の解決に力を尽くしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



副学長(栃木地区病院経営担当)／大学院・腎泌尿器外科学 教授
大家 基嗣

慶應義塾大学卒、医学博士。前慶應義塾大学泌尿器科学教室教授、慶應義塾大病院副病院長、腫瘍センター長、血液浄化・透析センター長。前日本泌尿器科学会理事長。第109回日本泌尿器科学会総会大会長、第61回日本癌治療学会学術集会大会長。泌尿器科専門医、腎臓病専門医、透析専門医。

本年度より栃木地区病院経営担当副学長を拝命いたしました。那須医療センターと塩谷病院とのさらなる連携を深めていきたいと考えております。専門性を重視しつつ、医療の効率化、若手医師の教育を強化し、日々働きがいを実感できることに注視していきたい所存です。地元医師会とのさらなる連携も強化し、結果として栃木地区全体の医療機能の向上をめざします。専門である泌尿器領域の医療にも尽力していきたいと考えております。併せて、大田原キャンパスでの教育にも微力ながら貢献していきたいと考えております。皆様のご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。



国際医療福祉大学 副学長(成田地区担当)／医学部長
坂元 亨宇

慶應義塾大学医学部卒、医学博士。病理専門医。米国ラ・ホヤ癌研究所留学。国立がんセンター病理部部長、慶應義塾大学医学部病理学教室教授・副医学部長を歴任。日本肝臓学会理事、日本肝臓研究会前理事長。日本病理学会総会会長、日本肝癌研究会会長、日本肝臓学会大会会長。日本病理学賞、日本肝臓学会織田賞受賞。

このたび、成田地区担当副学長を拝命いたしました。併せて、医学部長としては4年目を迎えます。成田地区において副学長はしばらく不在でしたので、試行錯誤しながらその役割を担っていききたいと思います。微力ですが、国際性と地域性を兼ね備えた成田ならではの教育・研究・診療の一層の発展、充実に取り組んでまいります。学部との相互連携による相乗効果を最大限に生かして、本学のめざす国際性と多職種連携をさらに進化させていければと思います。これまでの3年間はどちらかというと守り中心でしたが、これからは攻めにも転じていきたいと思えます。皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



副学長(教学・医療安全・関東地区病院経営担当)／副大学院長(教務・研究担当)／医療安全部 部長
池田 徳彦

東京医科大学卒、医学博士。東京医科大学呼吸器甲状腺外科主任教授、副学長、副院長、理事を経て現職。日本外科学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会の理事長を歴任。日本外科学会会頭(第127回定期学術集会主宰予定)、日本医学会連合理事、National Clinical Database代表理事、日本内視鏡外科学会監事。

副学長、副大学院長ならびに医療安全部部長を拝命いたしました。医療の進歩は高速であり、基礎と臨床あるいは異分野どうしの融合、医工連携、AI導入がその原動力となっています。いずれにおいても日常業務と研究とを両立することは個人のキャリアパス形成にも有用です。実効的な教育システム、研究支援の方法をはじめ、大学の環境整備に取り組んでいる所存です。臨床面では、高度な臨床は安全性の担保があってこそ均てん化し、日常化します。高齢化社会を迎え、本学が体によさしく安全な医療推進の中心となるよう、願っております。



薬学部 学部長／薬学科長／大学院 薬学研究科長／医療・生命薬学専攻主任／大学院 薬科学研究科長／生命薬科学専攻主任

八木 秀樹

東北大学薬学部卒、東北大学大学院薬学研究科博士課程修了。薬学博士。塩野義製薬株式会社研究所研究員。東北大学医学部、近畿大学薬学部で免疫抑制薬や抗体医薬品の創薬研究および免疫学を中心とした生物学教育に従事し、本学に教授として着任。2020年から薬学科長。専門は免疫学。

このたび、薬学部長および大学院薬学研究科長を拝命いたしました。職責の重さに身が引き締まる思いですが、本学のさらなる発展に向け微力ながら全力を尽くす所存です。まず、国家試験合格率95%への回復をめざし、学生教員一丸となつての学習サポートを徹底します。第二に、飛躍的に向上した病院就職率を維持し、臨床に強い薬剤師を継続的に輩出します。第三に、学生と教職員が互いに刺激し合える、風通しの良い学習・研究環境を築きます。今年は大田原にて日本薬学会関東支部大会も開催されます。学部一丸となって盛り上げ本学の存在感を高めたいと存じます。



小田原保健医療学部 理学療法学科長
渡邊 観世子

国際医療福祉大学保健学部理学療法学科卒、国際医療福祉大学大学院修士課程修了。首都大学東京(現 東京都立大学)で博士を取得。国際医療福祉リハビリテーションセンターなす療育園、国際医療福祉大学保健医療学部(大田原)を経て本学部に着任。

本年度より、小田原保健医療学部理学療法学科の学科長を拝命いたしました。開設20周年という節目を迎えた小田原キャンパスに着任できますことを、大変光栄に存じます。本学で学び、本学の関連施設で臨床経験を積む中で、多くの恩師よりご指導を賜りました。諸先生方が築き上げてこられた歩みと学生への深い思いを大切に継承しつつ、さらなる発展に向けて新たな一歩を踏み出してまいりたいと考えております。医療・福祉の分野において活躍できる主体性と柔軟性を備えた人材の育成のために、教職員間の連携を一層深め、一丸となって取り組んでいく所存です。



福岡保健医療学部 作業療法学科長
北島 栄二

長崎大学医学部卒、長崎大学大学院歯歯薬学総合研究科修了。医学博士。臨床と介護実習普及センターの現場を経て、厚生労働省で福祉用具・住宅改修指導官として介護保険制度にかかわる。長崎大学産学官連携戦略本部で准教授、企業と斜面市街地の移動を支援する福祉機器を開発。福岡国際医療福祉大学医療学部、国際医療福祉大学小田原保健医療学部で作業療法学科長を歴任し本学科長に着任。

本学科が築いてきた伝統を受け継ぎながら、さらなる発展をめざして教職員一丸となり教育に取り組んでまいります。作業療法士は、医学的知識を基盤に、対象者の生活行為を評価し、治療や代償手段を通して「その人らしい生活」を支援する専門職です。地域包括ケアシステムの推進により、医療と介護の連携が重要となる中、本学科では、人の身体と心を理解し、一人ひとりに寄り添える人材の育成をめざし、関連病院や他キャンパスと連携した教育を進めてまいります。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
医療マネジメント学科長
角田 圭雄

京都府立医科大学卒、同大学院修了。医学博士。英国国立ウェールズ大学MBA取得。市立奈良病院消化器科部長、京都府立医科大学講師、愛知医科大学肝胆脾内科学准教授を経て、2023年より国際医療福祉大学大学院教授。肝臓病学を専門とし、医療の質向上、人材育成、医療経営・マネジメント教育に幅広く取り組んでいる。

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 医療マネジメント学科長を拝命いたしました。これまでの肝臓病学における臨床・研究の経験、ならびに病院経営およびマネジメント教育に関する知見を基盤として、知識の修得にとどまらず、医療の質向上と病院経営の安定化を実践の場で担う人材の育成に尽力してまいります。本学科の特色である「医療」「経営」「情報・データ分析」を横断的に学ぶ教育の強みを最大限に生かし、大学院(h-MBA)とも連携して、医療現場の課題解決を先導するとともに、教職員の皆様とともに学科の一層の発展に努めてまいる所存です。



小田原保健医療学部 作業療法学科長
出口 弦舞

作業療法士、博士(保健医療学)。国立病院で福祉用具を多く活用した作業療法に従事したのち本学へ入職。作業療法士以前に撮影用模型製作業務に従事した経験を生かした、ものづくりによる支援が専門。福祉用具に関わる基準・規格(JIS/ISO/SG)の各種委員会にも参加。

4月1日に小田原保健医療学部・作業療法学科長を拝命しました出口弦舞と申します。静岡と神奈川の境目に位置する小田原キャンパスはこじんまりとっていますが、その分学生も教員も距離が近く、非常にアットホームな雰囲気です。このような雰囲気の中、作業療法学科では経験豊富でチームワークを大切にする先生方と共に、学生のさまざまな特性を見据えた教育を展開しております。今回新たにに取りまとの立場となりましたので学生、学科教員、大学へと貢献ができるリーダーシップをめざす所存です。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



福岡国際医療福祉大学 学長
松田 晋哉

産業医科大学医学部卒、フランス国立公衆衛生大学校卒。医学博士。福岡国際医療福祉大学看護部教授、産業医科大学名誉教授。前産業医科大学医学部公衆衛生学講座教授。専門はヘルスサービスリサーチ、ヘルス領域のビッグデータ分析。

原英夫前学長の後任として福岡国際医療福祉大学の学長を拝命いたしました。私は昨年4月に福岡国際医療福祉大学看護学部教授として当グループに赴任しましたが、それ以前は産業医科大学で、公衆衛生学の教育・研究に従事してきました。主な研究領域は医療介護福祉領域のビッグデータ分析、そしてその分析結果を踏まえた医療介護システム論です。高齢化が進む日本では、医療、介護そして生活の複合ニーズを持つ患者・利用者が増加します。こうした複雑なニーズに対応できるコメディカル人材の育成及び研究の推進に努めたいと思います。

新任のごあいさつ



福岡国際医療福祉大学 看護学部 看護学科長 松成 裕子

愛媛大学法学部卒、琉球大学大学院保健学研究科修了。大分大学大学院医学系研究科博士課程を経て、鹿児島大学医学博士取得。鹿児島大学医学部保健学科准教授、長崎大学大学院私学総合研究科准教授、鹿児島大学医学部保健学科教授の後、2026年4月福岡国際医療福祉大学看護学部看護学科長に就任。

今日、看護を取り巻く環境は大きく変化しており、療養の場は「病院中心」から「地域・在宅中心」へと転換する時代を迎えております。生活を支える視点を持ち、多様な価値観を尊重し、自ら考え、判断し、行動できる実践力を養うとともに、多職種と連携し、地域包括ケアの中心的役割を担う人材の育成に努めてまいります。そのために、学生一人ひとりの学びを大切にしながら、教員間の連携を一層深め、教育・研究・地域貢献のバランスのとれた学科運営を推進していく所存です。これまで築かれてきた伝統を尊重しつつ、新たな体制や視点も取り入れながら、学科のさらなる発展に取り組んでまいります。



保健医療学部言語聴覚学科学科長／ 国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター長 小森 規代

国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科卒業（7期生）。学部卒業後、国際医療福祉大学那須医療センターでの臨床、研究活動を経て2015年、本学大田原キャンパスに着任。現在に至る。本学大学院保健医療学博士（保健医療学）。

本年度より、大田原キャンパス言語聴覚学科学科長ならびに大学クリニック言語聴覚センター長を拝命いたしました。学生一人ひとりが充実した学生生活を送り、臨床力・思考力・人間力を兼ね備えた専門職として地域社会に貢献できるよう、教育体制およびカリキュラムの一層の充実に努めてまいります。また、地域の皆様、大学関連施設の皆様と臨床・研究・教育の各分野で連携を深め、活気ある学科づくりを推進するとともに、共に生きる社会の実現に向けて尽力してまいります。ご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



市川地区 医療局長／ 国際医療福祉大学市川メディカルセンター 病院長 宮崎 勝

千葉大学卒、医学博士。千葉大学名誉教授。前国際医療福祉大学成田病院病院長、元国際医療福祉大学三田病院病院長、元千葉大学医学部附属病院長、前千葉大学大学院臓器制御外科学教授、元千葉大学副学長、日本外科学会元理事・監事、日本外科学会第112回会頭、日本肝胆膵外科学会前理事長・名誉理事長、日本胆道学会元理事・第49回会長、国立大学附属病院長会議常置委員会前委員長。米国外科学会名誉会員、ヨーロッパ外科学会名誉会員、International Surgical Group (ISG) 日本代表メンバー。

このたび国際医療福祉大学市川メディカルセンターに、須田康文前病院長の後を引き継ぎ就任した宮崎勝です。当院は1939年に開院された化学療法研究所附属病院を2005年より国際医療福祉大学が継承し、2017年に国際医療福祉大学市川病院に、2026年4月より現名称に変更し現在に至っています。一般急性期病床に加え回復期リハビリテーション病床および医療型療養病床、化学療法研究所時代から継続されている結核病床も有しています。皆様方のご支援を心よりお願い申し上げます。



福岡国際医療福祉大学 医療学部 学部長 言語聴覚学科長 平島 ユイ子

広島大学学校教育学学士。福岡教育大学教育学研究科修士。福岡国際医療福祉大学大学院言語聴覚専攻博士。日本聴覚医学会・日本音声言語医学会合同委員会委員。日本教育オーディオロジー研究会会長。公立小学校、特別支援学校教員を経て本学教授。専門は小児聴覚障害、言語発達障害。

このたび、医療学部学部長及び言語聴覚学科学科長を拝命いたしました。時代に対応した柔軟な思考で患者家族のニーズを受け止め、能動的に働きかけることができるリハ医療スタッフの養成に力を尽くす所存です。大学教員、関連医療施設スタッフと力を合わせ、学生が意欲的に学べる環境を整えていきます。言語聴覚士は「生きる」に繋がる、「聞く」「話す」「解る」「食べる」をサポートします。相手の気持ちや生きがいを押し量り、共感できる学生を育みます。言語聴覚療法の歴史と知見を踏まえ、言葉の回復に貢献できる確かな力を持った言語聴覚士を育ててまいります。



国際医療福祉大学塩谷病院 病院長 稲見 茂信

日本医科大学卒、医学博士。前国際医療福祉大学成田病院循環器内科、元国際医療福祉大学塩谷病院循環器内科部長、元日本医科大学付属病院講師。Cardiovascular Research Foundation, Skirball Center For Cardiovascular Research New York 留学。日本心臓血管内視鏡学会専門医、日本心臓インターベンション治療学会認定医。

このたび国際医療福祉大学塩谷病院の病院長を拝命いたしました。当院の役割はこの地域の医療のニーズを正確に把握し「何をやりたかではなく何を必要とされているか」を常に考えて、かかりつけ医や他の病院と連携し最適な医療を提供していくことであると考えております。医療現場では専門性の高い高度な医療を提供することに注目が集まりがちですが、地域では高齢化により複数の疾病を抱えさらに老化現象も加わり病態が複雑となっている患者様が増加しているため、専門性の高い診療だけでなく複雑な病態を総合的に診療できる人材育成もめざしてまいります。



国際医療福祉大学市川総合病院 病院長／ 国際医療福祉大学 医学部 教授 菅 貞郎

慶應義塾大学卒、医学博士。前東京歯科大学市川総合病院病院長、元東京歯科大学市川総合病院脳神経外科教授、元慶應義塾大学医学部脳神経外科専任講師、元米国立衛生研究所神経疾患脳卒中研究所 研究員。日本脳神経外科学会認定指導医・専門医、日本脳卒中学会認定指導医・専門医、日本脳卒中の外科学会認定技術指導医。東京歯科大学名誉教授、日本脳卒中学会名誉会員。

このたび、東京歯科大学市川総合病院の事業承継にともなって再出発した国際医療福祉大学市川総合病院の病院長を拝命いたしました。これまで当院はがん診療連携拠点病院、地域医療支援病院の指定を受け、東葛南部二次医療圏有数の中核拠点病院として、がん、循環器、脳卒中の3疾病に加え、高齢化社会を見据えた運動器疾患の診療、また移植医療などの高度医療に取り組んでまいりました。今後は、救急医療体制の充実、ロボット手術など高度医療への取り組みを進め、急性期拠点病院として責務を果たすとともに、経営の健全化を図りたいと考えております。



山王病院 病院長 岡本 愛光

東京慈恵会医科大学卒、医学博士。国際医療福祉大学医学部教授、国際医療福祉大学大学院教授。前東京慈恵会医科大学産婦人科学講座主任教授。元National Institutes of Health（米国国立がん研究所）招待研究員、日本婦人科腫瘍学会理事長、婦人科悪性腫瘍研究機構（JGOG）理事長、日本産婦人科学会常務理事、日本臨床細胞学会前理事長、East Asian Gynecologic Oncology Trial Group (EAGOT) 理事長。

このたび山王病院病院長を拝命いたしました。長い歴史と伝統を有し、高度専門医療と温かいホスピタリティを兼ね備えた山王病院の責任を担わせていただくこととなり、大変光栄に存じます。当院は患者様一人ひとりに寄り添う丁寧な医療と、安心して療養いただける上質な医療環境を特色としております。今後はその強みをさらに発展させるとともに、新しい医療ニーズにも柔軟に対応し地域のみならず国内外からも信頼される病院づくりを進めてまいります。職員の皆様と力を合わせ、より魅力と活力にあふれる山王病院をめざして尽力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



国際医療福祉リハビリテーションセンターセンター長／ なす療育園 施設長 河野 由美

鳥取大学医学部卒、医学博士。鳥取大学医学部小児科学、東京女子医科大学母子総合医療センター発達部門を経て、2008年から自治医科大学総合周産期母子医療センター新生児発達部部長、小児科学教授。日本新生児成育医学会理事、ハリススクイアフォローアップ研究会会長。専門は小児科学、新生児学、小児保健学。

4月より社会福祉法人邦友会国際医療福祉リハビリテーションセンターセンター長、医療型障害児入所施設・療養介護事業所なす療育園の施設長を拝命いたしました。当センターは、なす療育園とサポートハウス那須の2施設で構成され、大田原地区の邦友会施設、大学やグループの医療機関と連携し、心身に障害のある方々が安心してその人らしい生活を送れることをめざして支援しております。前センター長の理念を受け継ぎ、医療と福祉が一体となった質の高い支援の実現に努めてまいります。皆様のお力添えを賜りながら施設運営を進めてまいります。よろしくお願い申し上げます。



成田リハビリテーション病院 病院長

永山 正雄

東海大学医学部卒、医学博士。国際医療福祉大学医学部成田病院脳神経内科学教授・熱海病院元副院長。米ミネソタ大学医学部博士研究員、国立島根大学医学部嘱託講師、上智大学生命倫理研究所客員所員、東海大学医学部講師等を経て現職。米国内科学会日本支部理事、米神経集中治療医学会理事、国際医療安全推進機構理事、日本蘇生協議会理事ほか多数。米国内科学会・米神経学会上級会員。

大谷俊郎慶應義塾大学医学部名誉教授の後任として病院長に就任いたしました。私はこれまで日米の大学の脳神経内科学講座で脳卒中、神経難病、救急・重症患者の診療、研究、医学教育、医学英語教育、学会・病院の運営・危機管理を行ってまいりました。当院は2017年に成田国際空港至近で皇室ゆかりの地に回復期リハビリテーション専門病院として開設され、2025年本学が承継。隈研吾氏設計のゆったりとした病院で、高度良質な専門医療スタッフ、本学医学部・成田病院所属各科専門医が連携し大変優れた成績をあげています。今後さらに皆様に愛される高度専門病院をめざしてまいります。



国際医療福祉大学成田老年医療福祉センター 特別養護老人ホームオルタンシア 施設長 原 修一

淑徳大学卒。1994年7月特別養護老人ホーム柝の実荘開設時に生活相談員として入職、2013年7月から施設長。2026年4月より現職。前那須塩原市介護保険運営協議会会長（3期9年）。

このたび、国際医療福祉大学成田老年医療福祉センター特別養護老人ホームオルタンシアの施設長を拝命いたしました。特別養護老人ホームで40年勤務した経験を生かし、ご利用者様お一人おひとりの思いやこれまでの人生を大切にしながら、日々の暮らしに寄り添った支援を心がけます。ご利用者様やご家族の皆様に、ささやかな安心や喜びを感じていただけるよう、職員一同あたたかい関わりを大切に、地域の中で信頼される施設をめざしてまいります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



柝の実荘 施設長 石橋 隆通

介護老人保健施設陽南に介護職にて入職し介護福祉士、介護支援専門員を取得。フロアー長経験後、特別養護老人ホーム柝の実荘にて施設ケアマネ、居宅ケアマネ、生活相談員を経て現職。

このたび、特別養護老人ホーム柝の実荘の施設長を拝命いたしました。創立32年目を迎えた歴史ある柝の実荘の施設長を引き継ぎ、身の引き締まる思いとともに、責任の重さを感じております。今まで、介護、介護支援専門員、生活相談員を経験しさまざまな体験をしてきました。施設長としての仕事はまだ微力ではございますが、今までの経験や知識を生かし利用者様、ご家族様から信頼される施設を心がけていくと共に、関連施設との連携を深め尽力してまいりたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学 初代作業療法学科長 杉原素子先生を偲ぶ会

去る2月5日に82歳で逝去された杉原素子初代作業療法学科長を偲ぶ会が、
3月19日、東京赤坂キャンパス講堂でしめやかに開かれ、故人にゆかりの深い方々が集まった。

杉原素子先生は、国際医療福祉大学開学にあたり、創設メンバーの1人として尽力し、初代作業療法学科長を務めた。我が国の作業療法士の黎明期であった1973年、東京都から米国に派遣され、作業療法士免許を取得。帰国後は教員として、優秀な作業療法士の育成に心血を注いだ。その功績を称え、2021年には旭日小綬章が授与された。開式にあたって、生前の活躍が伝えられる映像が流され、1分間の黙とうが捧げられた。

杉原先生は、本学の学部長、副学長、大学院副学長などを歴任され、研究や学生の指導といった学術・教育面において多大なるご功労を重ねられただけでなく、2008年、2013年、2019年からの延べ7年半「新宿けやき園」の施設長として福祉の最前線に立たれ、利用者様への支援や職員の育成にも深く貢献された。このように、学問と臨床現場の両面において先駆者として作業療法士の進むべき道を導いてこられた。

高木邦格理事長は弔辞で「東京都職員で日本作業療法士協会的事务局長を務めている『杉原素子』という逸材がいるという噂を聞き、本学の初代作業療法学科長の就任を依頼するために杉原先生のもとを訪ねました。その場で『やります』とご快諾いただき、その潔さに感服したことを思い出します」と杉原先生との初対面時のエピソードを披露し、故人の人柄を偲んだ。



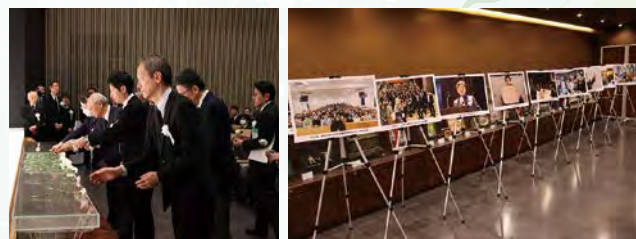
●花があふれるステージ上には
優しく微笑む杉原先生の遺影が飾られた

●杉原先生との思い出を語る高木理事長

その後、日本作業療法士協会の山本伸一会長、谷修一名誉学長、谷口敬道保健医療学部長が弔辞、鈴木康裕学長が締めのごあいさつを述べた。

最後に、遺族を代表してご子息の杉原活郎さんが「家庭では仕事について多くを語らなかった母ですが、偲ぶ会を通じて、改めて母の社会的な歩みや知らなかった一面について知ることができました。今日ここにいらっしゃるお一人おひとりが、母との再会の機会を私にくださったように思います。母をこのように温かく偲んでくださり、心より感謝申し上げます。ありがとうございました」と話した。

その後は参列者による献花が行われ、会場には、生前の写真パネルや関連資料、著書などが多数展示され、故人を偲びながらの懇談が続いた。



●参列者による献花の列

●生前の活躍を示す写真パネルや資料を展示

略 歴

- | | |
|-------|--|
| 1943年 | 2月21日 東京都生まれ |
| 1966年 | お茶の水女子大学 文教育学部教育学科 卒業 |
| 1968年 | お茶の水女子大学大学院
人文科学研究科教育学専攻修士課程 修了 |
| 1970年 | 東京都心身障害者福祉センター 主事 |
| 1971年 | 東京都衛生局医務部医療対策課 主事
米国・南カリフォルニア大学に留学 |
| 1973年 | 米国・南カリフォルニア大学
作業療法学科資格取得コース 修了
作業療法士免許登録
東京都立府中リハビリテーション専門学校 主事 |
| 1985年 | 東京都心身障害者福祉センター 副参事 |
| 1995年 | 国際医療福祉大学 保健学部(保健医療学部)
作業療法学科 教授・学科長 |
| 2001年 | 国際医療福祉大学 保健学部 学部長
学校法人国際医療福祉大学 理事 |
| 2004年 | 国際医療福祉リハビリテーションセンター センター長
なす療育園 顧問 |
| 2008年 | 新宿けやき園 施設長(2013年～、2019年～も同役職) |
| 2009年 | 国際医療福祉大学 副学長 |
| 2010年 | 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 学部長 |
| 2012年 | 国際医療福祉大学大学院 副大学院長
国際医療福祉大学 医療福祉学部 学部長 |
| 2016年 | 国際医療福祉大学 成田保健医療学部 学部長 |
| 2018年 | 国際医療福祉大学大学院 教授 |
| 2021年 | 旭日小綬章受賞 |
| 2023年 | 国際医療福祉大学 名誉教授 |
| 2026年 | 2月5日 逝去(享年82歳) |

福井トシ子副大学院長インタビュー

今注目の「トレインドナース」！ 博士号をもって活躍する看護職を養成する 本学大学院の取り組みとは

朝の連続テレビ小説「風、薫る」の影響で注目されている「トレインドナース」。正規の訓練を受け、専門知識と技術を持つ職業看護師のことを指すが、日本においては明治期以前までは存在していなかった。「トレインドナース」が生まれる過程はドラマのなかでも紹介されているが、時代とともに変わってきた看護師の働き方や看護の考え方、高度実践看護師養成についてなどを、2024年度よりDNP(管理実践看護学)コースを開設した、本学大学院の福井トシ子副大学院長に聞いた。



「人生100年時代」における看護師の働き方

日本でベストセラーとなったリンダ・クラットン著書『ライフ・シフト』で「人生100年時代」という言葉が広まりました。長い人生においては家計を支えるために仕事に従事する時間も長くなり、教育→仕事→引退という一方通行の生き方では「人生100年時代」を乗り切ることはできません。看護師という職業においてもそれは同様で、仕事を始めたらそれを一生続けると考えなくてもいい時代です。自らのライフスタイルを大切にしながら可能な形で看護師の仕事を続けてほしいと思います。

そうした意味では、看護師資格は一生ものですから、学校卒業後、家庭を持ったり、子どもを育てたり、変化するライフスタイルに合わせて仕事を途中で休んでもまた復帰するということが可能です。子育てしながら働いてもいいし、親の介護がひと段落してから復帰してもいいし、自由度が高いのが特長です。臨床の現場から大学や大学院に戻り、学士や修士を取ることもいいと思います。社会で世の中の仕組みに触れてから、また学びを修めることで新たな視点を持つことができます。さらに、大学院で実践志向のDNP(管理実践看護学)コースに進み、臨床現場の課題を解決に導くことをめざすのは、現場を経験した人ならではのキャリアアップの1つではないでしょうか。

実践志向の変革を推進するためのコース

高度実践看護師養成のための博士課程であるDNP(Doctor of Nursing Practice)コースは、2024年度に本学大学院に開設しました。アメリカ等では20数年前から普及していますが、日本でこのコースを開設している大学院はまだ少ないのが現状です。看護学の博士号であるPh.D.が新たなエビデンスを創出する研究を行うのに対し、DNPは研究成果を実践につなげることを重視します。つまり、新しい知見を生み出すPh.D.コースに対して、臨床現場でその知見に基づく高度な看護を実践するための実践力、変革力を養うのがDNPコースです。

臨床現場でキャリアを積んできたみなさんにとっては、DNPコースは魅力的ではないでしょうか。本学では、DNPについて理解を深めるためのシンポジウムを東京赤坂キャンパス講堂で開催します。ぜひ、この機会に参加して、看護師としての未来、働き方、キャリアアップについて考えてみませんか。

DNPシンポジウム2026

テーマ

DNPコースで目指す人材像

開催日時：2026年8月28日(金) 13時30分～16時30分

開催場所：国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス 講堂

共催：聖路加国際大学・北里大学・国際医療福祉大学・
亀田医療大学・愛知医科大学・大分県立科学大学

後援：一般社団法人日本看護系大学協議会

対面とオンラインで開催の予定です。本シンポジウムに関する詳細情報は7月以降に本学ウェブサイトに掲載する予定です。

福井トシ子先生企画協力の書籍

14歳の葵と読む
ナイチンゲールの『看護覚え書き』
古くて新しい170年前の「看護」の知恵
看護師・看護研究者 川嶋みどり編・著
ライフサイエンス出版



ナイチンゲールの『看護覚え書き』の文章から数行を抜粋して紹介し、読んだことのない人でもナイチンゲールの考える「看護」が理解できるようにわかりやすく解説した本。

12か国・地域の16の研修先で482人が参加

2025年度冬季の総合教育科目「海外保健福祉事情」は1月から3月にかけて12か国・地域で16のグループに分けて行われた。本学の5つのキャンパスから399人、姉妹校の福岡国際医療福祉大学から83人の計482人が参加、世界各国の医療・福祉を学んだ。今回はこのうち7つのグループを紹介する。



●SITプンゴルキャンパスにて

シンガポール シンガポール工科大学 (SIT)

多様な宗教、価値観に配慮した医療

研修には20人の学生が参加した。シンガポールと日本の比較学習から、シンガポールの医療制度、健康文化と社会システムについて講義を受け、施設見学をした。シンガポールは、政府による公的支援と個人の責任を重視した効率的な医療システムが特徴。多民族国家・シンガポールは、国家がシステムを作り、それぞれの民族を尊重した文化や制度となっている。成田薬学部のカバンサ・ジョン・デニスさんは「シンガポールの圧倒的な多国籍性であり多様な宗教や価値観を持つ人々に配慮した医療提供が求められている点が特に印象的だった」と語っている。

福岡保健医療学部看護学科 前原敬子准教授
成田薬学部薬学科 カバンサ・ジョン・デニス



●シンガポール工科大学での施設見学の様子

ハンガリー センメルweis大学

逆境でも失わなかった国民の誇りに感銘

研修には28人が参加した。大学付属病院や軍事病院、リハビリクリニックなどの医療施設を見学した。障がい者教育を行う施設の見学の際、幼児に対しての教育を行っていることを知り、日本よりも進んでいる点だと感じた。また、「友達アワーやウェルカムディナーでの交流を通し、センメルweisの学生からハンガリー文化を覚えてもらう良い機会となった」と成田薬学部の近藤凜さんは語っている。ハンガリーは、幾度も主権を奪われ続けてきた歴史をもつが、逆境でも誇りを失うことはなかった。学生たちはそんなハンガリーに、深く感銘を受けていた。

成田保健医療学部言語聴覚学科 富澤晃文教授
成田薬学部薬学科 近藤凜



●ハンガリーの老人ホームを訪問、見学した

韓国 ウルチ大学

ウルチで体感した韓国流「おもてなし」

研修には学生39人が参加した。充実した研修プログラムを用意され、韓国の医療について理解を深めることができた。現地の病院見学を通して日本との医療制度や医療体制の違いについて学んだ。福岡保健医療学部医学検査学科の吉井民さんは「日本の国民皆保険制度と違い、韓国では医療機関を比較的自由に選択できるなど医療へのアクセス方法に特徴があった」と話している。現地学生らとの交流の機会、トモダチアワーでは「曲名当てクイズ」で大盛り上がり、とても楽しいひと時を過ごすことができた。学生のほとんどが初めての海外だった。ウルチ大学生スタッフの尽力もあり、とても充実した11日間だった。

福岡国際医療福祉大学医療学部視能訓練学科 佐々木信講師
福岡保健医療学部医学検査学科 吉井民



●日韓学生の交流は、プログラム外でも続いた

ポーランド プロツワフ医科大学

歴史を感じた医学教育

研修には11人が参加した。プロツワフ医科大学を訪問し、講義や解剖学博物館、薬学博物館、大学附属病院の見学を通して医療教育の歴史と現在の医療体制について理解を深めた。とりわけ多数の標本が体系的に展示された解剖学博物館では、医学教育の歴史的背景を感じる機会となった。成田保健医療学部医学検査学科の田中雅也さんも「病院の実習において、古い医療知識と現代の知識の中和がより良い医療品質につながると知った」と語っている。現地学生との交流やポーランドの歴史・文化に触れる経験を通して、今回の訪問が両大学の教育・研究交流のさらなる発展につながることが期待される。

福岡国際医療福祉大学医療学部理学療法学科 高畑哲郎助教
成田保健医療学部医学検査学科 田中雅也



●トモダチアワーにくるみボタンを制作して交流

台湾 元培医事科技大学

患者さんとの距離感の近さに驚き

研修には30人が参加した。病院の外観は質素な造りであるが、内装は壁紙にイラストなどが描かれカラフルだった。医師や医療従事者、患者さんともITやアプリを活用し情報共有を図り、医療従事者と患者さんとの距離感は日本より近いのだと感じた。処方箋では漢方も積極的に用いられていた。病院見学では各学科に即した見学場所だったため、学生たちは積極的に質問し学びを深めていた。福岡国際医療福祉大学医療学部診療放射線学科の田中蓮さんは「多職種が連携しながら患者さんを支える重要性、言語や文化の違いの中で相手に伝える工夫の大切さを学んだ」と話していた。

成田看護学部看護学科 矢代美希講師
福岡国際医療福祉大学医療学部診療放射線学科 田中蓮



●中国語の勉強も行った



●TAFE GCでのヘルス・ワークショップの様子

2025年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

【看護学分野】

- ・笠間 秀一 プラダグビー選手の呼吸器感染症におけるプレゼンティーズムの意思決定プロセス看護基礎教育のシミュレーション教育においてファシリテーターとして求められるスキルの構造と実践状況
- ・高橋 恵理菜 新任期保健所保健師の就労継続に影響する要因の解明に関する研究～COVID-19の経験を通して～
- ・丸山 咲子 先天性心疾患の胎児診断を受けた女性の出産前後の認知と選択的開示状況に関する質的研究
- ・小稲 文 母親のネグレクト行動に関する自己報告式尺度の開発と検証
- ・RAN XIN 日本へ非自発的移住をした中国残留孤児配偶者の30 年の生活史：移住後の長期にわたる生活経験の質的分析
- ・青森 広美 療養病棟に勤務する看護師の倫理的行動自己評価尺度の開発
- ・岩崎 優子 精神看護学教育におけるVirtual Reality-learningの開発―「保護室入室疑似体験」の学習内容の特徴と教育的有用性―
- ・内野 恵子 2年目看護師のキャリア形成におけるプロアクティブ行動とその関連要因
- ・大津山 優美 看護師の高齢者虐待に関する教育プログラムの有効性の検討
- ・加古 幸子 大学病院に勤務する看護師のアサーティブネスがワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響

- ・重田 ちさと 言語的暴力を受けた精神科若手看護師の陰性感情を低減するための集団認知行動療法プログラムの効果検討：混合研究法
- ・鈴木 茜 行政保健師におけるGRIT（やり抜く力）の特徴と関連要因
- ・武田 彩子 麻酔に関わる手術室の外回り看護師のクリニカルコンピテンシーとその関連要因
- ・長峰 久美子 看護専門学校に勤務する看護教員の「同僚性」に影響する要因―組織向上のための視点に着目して―
- ・西村 宣子 急性期病院に勤務する看護師長のリフレクション自己評価尺度の開発
- ・新田 真由美 職場復帰したうつ病をもつ日本人男性を対象とした反うつ焦点化認知行動療法に関する混合研究法を用いた効果検討
- ・平野 裕子 死に近く患者を看取る看護師の死への態度―M-GTAによるがん看護専門看護師の語りの分析―
- ・平本 康子 周産期母子医療センター勤務助産師の困難感尺度の開発
- ・武藤 元美 入院中のうつ病患者への効果的な看護実践および影響要因の特徴―構造モデル作成と信頼性および妥当性の検討―
- ・森口 ふさ江 小児患者急変予測臨床推論に必要な要素と推論力の構造
- ・舟木 智恵 被災経験のある地域住民の防災行動と関連要因の検討
- ・手島 芳江 ラウンドにおける看護師長の実践を可視化する指標ツールの開発と関連要因の検討

【助産学分野】

- ・西俣 安希子 母子への継続支援における医療機関・助産所の助産師と保健師の連携

【作業療法学分野】

- ・加納 裕造 Go/Nogo課題における刺激比率の違いが事象関連電位および前頭前野の酸化ヘモグロビン変動に及ぼす影響
- ・堀川 晃一 高次脳機能障害を伴う脳血管障害者の移乗動作手順の定着に向けた介入効果―内省の理論を用いたチェックリストによるシングルケースデザインでの検討―

【視機能療法学分野】

- ・今中 楓菜 高齢者の転倒リスク評価のための歩行視力の評価法確立と社会実装に向けた研究―歩行時の視力低下と視線動揺との関連についての検討―
- ・漆原 美希 学童期の近視に対する屈折矯正の違いが視写活動に及ぼす影響

【福祉支援工学分野】

- ・小野塚 雄一 介護支援専門員における短下肢装具の不具合・不適合の確認と発見に関する研究―混合研究法を用いて―
- ・川合 健太 変形性膝関節症における個人内1歩毎の 外部膝関節内反モーメントの増減に関する研究―床反力とレバーアームの比較―
- ・瀬黒 淳矢 変形性膝関節症患者の歩行分析―立脚中期の外部膝関節内反モーメント減少に与える要因の検討―
- ・曹 建剛 Correlation between foot posture index , pelvis inclination and coronal balance of spine in patients with mild adolescent idiopathic scoliosis and analysis of corrective effect of foot orthoses (邦題：軽度思春期特発性脊柱側弯症患者の足部姿勢指数、骨盤傾斜と脊柱前傾面バランスの関係および足部装具効果)
- ・樋口 友紀 地域包括ケア病棟看護師の車いす上での姿勢崩れの認識と取り組みの課題
- ・渡邊 美幸 内側縦アーチの低下に対するアーチパッド挿入が高齢者のクロスステップ動作に及ぼす影響

【言語聴覚分野】

- ・廣瀬 信代 自閉スペクトラム症児における表出語彙の特性：意味領域による検討
- ・猪川 尚子 障害福祉サービスにおける失語症の言語訓練の主観的ニーズとアウトカム：混合研究による検討
- ・小菅 直子 失語症者の家族のためのコミュニケーションQOL尺度（QCLS-FPA）の作成：信頼性と妥当性の検討
- ・林 京子 聴覚障害看護学生の臨床実習時の学修支援ニーズと合理的配慮―病院における合理的配慮の実行可能性―
- ・佐藤 文子 自閉スペクトラム症児の発話（構音）障害の特性および 関連要因の検討
- ・豊嶋 明子 発達性言語障害児における統語機能の障害特性と文発話誘発法の検討

【医療福祉教育・管理分野】

- ・小林 昂将 理学療法士における好奇心の喚起要因の解明―修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析―
- ・中村 康二 教育ニードアセスメントツールの開発に必要な義肢装具士教員のロールモデル行動の解明
- ・太田 研吾 精神科作業療法における主体的行動観察尺度（OMAB）の信頼性および妥当性の検討
- ・中村 景子 急性心筋梗塞患者の生活習慣と年齢群別特性

【医療福祉教育・管理分野】

- ・草場 耕二 MALDI バイオタイパーを用いた同定菌種名の安定性とデータベース更新による同一菌種名の精度検証
- ・東 靖之 血清アルブミン測定法の反応特性が病態識別に与える影響

【医療福祉経営学分野】

- ・村岡 修子 クリティカルパス適用患者における看護ケア提供時間予測モデル構築と特微量解析
- ・伊藤 務 公的医療保険の被扶養者認定をめぐる政策課題の分析および提言

【先進的ケア・ネットワーク開発研究分野】

- ・六本木 麻奈 介護職員自身の化粧に対する意識と要介護高齢者に対する化粧ケアの意識―東京都の特別養護老人ホームに勤務する介護職員を対象にして―

【医療福祉学分野】

- ・相川 穂果 認知症カフェの機能とその関連要因に関する研究―連携が機能発揮を支える要件に着目して―
- ・木村 潤 障害者総合支援法による「協議会」を介した社会資源の改良・開発に関する研究
- ・中村 晶子 認知症地域支援推進員による認知症サポーターの地域活動支援過程に関する研究
- ・菱谷 隆宏 退院支援過程における退院支援看護師と医療ソーシャルワーカーの強みに関する研究―両職種間での連携を深めるために―
- ・二木柳 寛 居宅介護支援事業所管理者の介護支援専門員人材養成の取り組みに関する研究

【臨床検査学分野】

- ・日沼 咲 統合失調症患者の回復プロセスにおける心理療法に関する主観的体験の研究
- ・下重 晴生 心理学的霸気尺度の開発と適応力への影響性の検討
- ・渡邊 翔太 成熟した甘え尺度の開発―信頼性と妥当性の検討―
- ・鈴木 宏 希少な尿中細胞に対する簡易型遺伝子検査法の開発

【医療・生命薬学専攻（分野なし）】

- ・松尾 亜子 超高齢心房細動患者におけるアピキサバンの安全性と有効性：日本のレセプトデータ後ろ向き解析
- ・石川 我汰 製剤プロセスの効率化を可能とする新規造粒技術による製剤設計
- ・荒井 裕美子 法規制への応用を目指した、定量的構造活性相関（QSAR）による、フェンタニル系およびカンナビノイド系危険ドラッグの活性予測と検証
- ・高橋 祐紀 小児用製剤を指向した湿製錠剤（口腔内崩壊錠）の最適化とフィルムコートによる苦味マスキング

【社会医学研究分野】

- ・佐藤 麻央 Prescribing Patterns of GLP-1 and GIP/GLP-1 Receptor Agonists and Other Glucose-Lowering Drugs Requiring Special Caution in Elderly Japanese People with Type 2 Diabetes. (邦題：高齢日本人2型糖尿病患者における GLP-1・GIP/GLP-1 受容体作動薬および慎重投与を要する血糖降下薬の処方実態)
- ・熊澤 芽葉恵 Contextual Uncertainty and Public Information-Seeking During Infectious Disease Outbreaks: Evidence from Japan's Largest Q&A Platform (邦題：感染症流行時の情報探索行動に関する実証的知見：日本最大のQ&A プラットフォームからのエビデンス)
- ・永岡 大輝 Risk Stratification for Recurrence and the Impact of Educational Interventions in the Management of Clostridioides difficile Infection (邦題：Clostridioides difficile 感染症における再発リスク層別化と教育的介入の効果に関する研究)
- ・七尾 大観 Clinical and economic impact of ventilator-associated pneumonia in intensive care units in Japan (邦題：日本の集中治療室における人工呼吸器関連肺炎の臨床的および経済的影響)
- ・橋本 季子 Clinical Evaluation of High-Risk Medical Devices under the European Medical Device Regulation: Current Status and Challenges (邦題：欧州医療機器規則（MDR）における高リスク医療機器の臨床評価の現状と課題)

- ・中島 隆道 Resurvey of the differences in residents' perceived barriers in questioning/challenging authority between Japan and the United States―Questionnaire based cross sectional study― (邦題：日米における研修医の指導医とのコミュニケーションに関する意識の再調査)
- ・岡野 弘 Emergency resuscitative thoracotomy in severe trauma: Analysis of the nationwide registry data in Japan (邦題：重症外傷に対する蘇生的開胸術：日本全国レジストリデータの解析)
- ・菊永 一輝 Poor Psychosocial Safety Climate Increases Teleworker Vulnerability to Suicidal Ideation (邦題：心理社会的安全風土と希死念慮の関連：在宅勤務者における関連の顕著性)
- ・坂本 貴志 Machine Learning Prediction of Anastomotic leak after Low Anterior Resection.―Nationwide Database Analysis― (邦題：機械学習を用いた低位前方切除後の吻合不全の予測モデル構築―国内データベース研究―)

- ・平田 海邦 Comparison of neurological outcomes between out-of-hospital cardiac arrest due to anaphylaxis and cardiac causes: a nationwide population-based observational study. (邦題：アナフィラキシーおよび心原性による院外心停止患者の神経学的予後の比較：全国データベースを用いた観察研究)

- ・井桁 龍平 Regional comparison in cerebral performance outcome of out-of-hospital cardiac arrest: The All-Japan Utstein Registry (邦題：院外心肺停止患者における神経学的予後の地域差の検討：日本ウツタインレジストリを用いて)

- ・高橋 則晃 Breast Cancer Screening Participation and Internet Search Activity in a Japanese Population: Decade-Long Time-Series Study (邦題：日本の乳がん検診受診率とインターネット検索活動：長期時系列研究)
- ・川崎 幹子 Association of effort-reward imbalance with fingernail cortisol levels in apparel manufacturing workers (邦題：被服製造労働者における努力―報酬の不均衡と爪コルチゾールとの関連)

【臨床医学研究分野】

- ・檀之上 和彦 Diagnostic Accuracy of a Smartphone-Based Mobile Slit Lamp Microscope for Nuclear Cataract Grading: A Comparative Study (邦題：スマートフォン接続型スリットランプの有用性の検討に関する臨床研究)
- ・小川 知英 Current Status of Primary Hyperoxaluria Type 1 in Japan (邦題：日本における原発性高シュウ酸尿症1型の現状)
- ・片桐 敏雄 Comparison of Clinical Factors Between Recurrent and Non-Recurrent Groups Within One Year After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation Performed by the Same Operators in a Regional Core Hospital in Japan (邦題：日本の地域中核病院で同一術者により実施された心房細動カテーテルアブレーション後1年以内の再発群と非再発群の臨床的要因の比較)
- ・山本 唯史 Catheter Ablation in Older Patients with Atrial Fibrillation: Clinical Characteristics and Outcomes, Including Cardiac Function, in a Retrospective Analysis at a Regional Hospital Center in Japan (邦題：高齢者心房細動患者に対するカテーテルアブレーション：地域中核病院における臨床的特徴と治療効果の後ろ向き検討)

- ・中山 紫季 Gastrointestinal bleeding among 151 patients undergoing maintenance hemodialysis for end-stage renal failure: a 5-year follow-up study (邦題：末期腎不全に対し維持血液透析を受けている151症例での消化管出血：5年間の追跡調査)
- ・永井 瑞紀 Optimal endoscopist's visual gaze pattern for improving adenoma detection during colonoscopy (邦題：大腸内視鏡検査における腺腫発見率の向上のための最適な内視鏡医の視線移動パターン)
- ・持田 賢太郎 Personalized education approach based on cognitive psychology for endoscopic diagnosis: a multicenter randomized trial (邦題：内視鏡診断における認知心理学的個別化教育アプローチ：多施設共同無作為化比較試験)
- ・結城 真広 Visit-to-Visit Variability in eGFR and UACR Is Associated with the Progression of Diabetic Kidney Disease in Type 2 Diabetes mellitus patients: A Nationwide Population-Based Study (JDDIM82)

- ・小花 彩人 Use of a zipline skin closure device in gastroenterological surgery: a multicenter randomized controlled trial assessing wound infection incidence, operation time, and cosmesis (邦題：消化器外科手術における新規皮膚閉鎖デバイスの有用性の検討：多施設共同ランダム化比較試験)
- ・弓削 徳久 Impact of leaflet resection technique on mitral valve mobility after mitral valve repair assessed by echocardiography (邦題：弁尖切除術が僧帽弁形成術後の弁尖可動性に与える影響)
- ・葛西 貴広 Peritoneal dialysis assists residual renal function to maintain glucose tolerance: a prospective observational study (邦題：腹膜透析は残存腎機能を介して耐糖能を維持する：前向き観察研究)

Group Topics グループトピックス IUHWグループにおける注目の出来事や話題を紹介します

本学初の海外病院「国際医療福祉大学インターメッド病院」がモンゴルで始動

モンゴルのインターナショナルメディカルセンターLLCが運営する「インターメッド病院」(ウランバートル市)は、本学とのパートナーシップの開始により、2026年3月2日付で病院名を「国際医療福祉大学インターメッド病院(英語名：INTERMED IUHW HOSPITAL)」へ改称しました。同病院は、モンゴルにおいて日本の大学名を正式名称として冠する初の医療機関であり、本学にとっても自らの名を冠した初の海外病院となります。

新病院名称披露のテープカット式

同日、病院新棟にて提携に基づく新病院名称の披露が行われ、日本側からは本学の高木邦格理事長、鈴木康裕学長、小林弘之元駐モンゴル特命全権大使、武見敬三元厚生労働大臣が参加しました。モンゴル側は、IMC親会社のMCSグループのオドジャルガル会長、シュンクライ社のバットサイハンチェアマンらが参加しました。



●高木理事長、鈴木学長、武見敬三元厚生労働大臣らによるテープカット式

モンゴルの医療レベル向上への寄与を確信―高木理事長

集まったモンゴルメディアの取材に対し、高木理事長は「今回のプロジェクトは、本学で研鑽を積んだ医師がモンゴルへ帰還する重要な節目の時期に始まります。インターメッド病院との緊密な協力で、モンゴルの医療全体のレベルがさらに向上することを確信しています」と話しました。また、鈴木康裕学長は「我々の協力の最大の目的は、命を救う医療を受けるために国を出なければならないモンゴルの人々をなくすことです。そのために、両国の医師が互に行き来して研鑽を積み、放射線・病理診断を双方で確認する『ダブル



●メディアのインタビューに答える高木理事長



●国際医療福祉大学インターメッド病院

式典でMCSグループのオドジャルガル会長は「国際基準を満たす病院として一層の飛躍を遂げるため、外国投資を受け入れた歴史的な一歩を記す日となりました」と挨拶し、高木邦格理事長は、「私たちはこれまで、フルスカラシップによるモンゴル人学生の日本の医師免許取得の支援や、モンゴルの医学・医療発展に向けた投資など、多角的な支援を継続してきました。今回のプロジェクトはそれをさらに発展させるものです」と述べました。



●新しい病院名が表記されたエントランス

チェック体制』の構築を推進します」とコメントしました。また、武見敬三元厚生労働大臣は「私が大臣在任時に掲げた『日本の保健医療を国際展開し、政府と民間が協力してアジア諸国に貢献する』との方針に、民間で最も力強く協力したのが、国際医療福祉大学です。今回のパートナーシップによって発足した新病院は、日本政府の方針と完全に一致するもので、日本とモンゴルのこれからの交流において極めて重要な役割を果たすことになります」と語りました。



●日本側、モンゴル側の式典参加者による記念撮影

「国際医療福祉大学市川総合病院」開院式

市川総合病院 新体制でスタート



●国際医療福祉大学市川総合病院の外観

東京歯科大学からの要請で市川総合病院を承継した本学は4月1日、国際医療福祉大学市川総合病院を開院した。

当日早朝に挙行された開院式では、病院玄関前で鈴木康裕学長、菅貞郎病院長参加の下、テープカットが行われ、地元メディアも取材に集まった。

鈴木学長は「地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院としてこれまで地域の皆様と歩んでまいりましたが、今後なお一層、ご愛顧いただけるよう職員一同、精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます」と挨拶した。菅病院長は「開院にあたり、これまで長年にわたり当院を支えてくださった地域の皆様、関係医療機関の皆様に心より御礼申し上げます。今後も、これまで築いてきた診療体制や地域との連携を大切に、急性期医療を担う総合病院としての役割を継続しながら、より安全で質の高い医療の提供に努めてまいります。東葛南部190万の二次医療圏での立ち位置はこれまでと変わらず、がん、心臓病、脳卒中などを中心とする体制のほか、救急医療と災害医療に力を入れて、角膜移植、腎臓移植などにも力を入れてまいります」と決意を述べた。

今後は、国際医療福祉大学附属病院としての強みを生かし、ロボット支援手術や移植医療をはじめとする高度先進医療の充実にも積極的に取り組む。また、歯科大学附属病院として培ってきた質の高い歯科医療も継続し、医科・歯科連携による包括的な医療を提供する。さらに、臨床医学研究センターとして、学生の実習や臨床研修の受け入れを行い、万全な教育体制を整えていく。

市川総合病院は1946年に開院。病床数は511床あり、歯科や脳神経外科、心臓血管外科などの診療科に新たに「救急科」「頭頸部外科」を加えた28の診療科を備える。市内の市川メディカルセンターとも連携し、医療環境の充実に貢献する。本学は、東京歯科大学から当病院を無償で譲渡したいとの申し出を受け、地域医療の混乱を防ぐこと、医学部をはじめとした学生の教育および実習の施設として活用できることから、当病院を承継した。



●鈴木康裕学長、菅貞郎病院長が参加したテープカット



●鈴木康裕学長



●菅貞郎病院長

福岡県で唯一の4年制音楽大学「福岡国際音楽大学」が開校

澤 和樹学長指揮のもと「福岡から新しい音楽を奏でる」

2026年4月、東京藝術大学第10代学長でバイオリニストの澤和樹氏を学長に迎え、福岡県で唯一となる4年制の音楽大学が開校した。音楽表現専攻と音楽ビジネス専攻の2専攻で、演奏家や教員だけでなく、医療・福祉、ゲームやアニメなどのコンテンツ産業にも活躍の場を広げ、音楽の力を社会に還元できる人材を育成する。

澤学長をはじめ、岡田敦子副学長（前東京音楽大学副学長・ピアニスト）や青山弥生教授（劇団四季俳優）ほか、国内外で活躍する一流の教授陣が指導を行う。また九州のトップオーケストラである九州交響楽団との連携協定を締結、メンバーによる指導や合奏授業へ



●式辞を述べる高木邦格理事長

の協力など、実践の場が用意されている。

4月8日に行われた、開学・入学式には、客員教授に就任したシンガー・ソングライターのさだまさしさんが来校。さだまさしさん作詞作曲の校歌「この道を行く」が披露され、新入生が晴れやかな顔で斉唱した。



●ウェルカムコンサートで演奏する澤和樹学長



●新入生を激励するさだまさしさん

堤 治名誉病院長 送別会

3月25日、堤 治山王病院名誉病院長の送別会が開催された。高木邦格理事長と久須美真紀山王病院リプロダクション・婦人科内視鏡治療センター長のあいさつの後、藤井知行専務理事が乾杯の音頭をとった。お人柄を慕う多くのゲストからのコメントのほか、堤名誉病院長の歌の披露や花束贈呈など、終始温かな雰囲気ではじまり、列席者が堤名誉病院長を囲み話は尽きなかったが、最後に「東大病院、山王病院で一生懸命働かせていただきました。今、こんな金屏風の前であいさつしていますが、人間の価値は肩書きではなく何をやったかということに尽きると思います。皆様にお会いできて、力をつけていただきましたように、人生頑張っていれば何かいいことが必ずあるものです。引き続き80歳までは頑張っていきたいと思っています」とあいさつし、送別会は幕を閉じた。

堤名誉病院長は、東京大学医学部卒業後、東京大学医学部附属病院を中心に産婦人科・生殖医療・内視鏡外科の分野で



●列席者に感謝を伝える堤名誉病院長

臨床・研究・教育に携わった。米国・国立衛生研究所への留学を経て、東京大学医学部附属病院で講師・助教授・教授を歴任。東宮職御用掛として皇太子妃雅子様の出産・診察の産婦人科主治医を務める。2008年より山王病院長を務め、2021年より名誉病院長として長年にわたり日本の産婦人科医療を牽引された。今後も山王病院で週1回、診療にあたられる。

堀口 淳教授のご退任 記念祝賀会

堀口 淳医学部乳腺外科学講座教授（代表）のご退任を記念して、2月22日に祝賀会が開催された。堀口教授は、群馬大学医学部を卒業後、同大附属病院等勤務を経て、1998年より米国・ノースウェスタン大学に留学。帰国後は群馬大学医学部附属病院や同大大学院医学研究科等での勤務の後、2017年より国際医療福祉大学病院乳腺外科部長、国際医療福祉大学成田病院乳腺外科部長などの第一線で活躍された。また本学医学部乳腺外科学主任教授の後、2023年4月より代表教授として多くの学生の指導にもあたった。

高木邦格理事長をはじめとする列席者に向け、堀口教授は国際医療福祉大学医学部の教授になった当時、乳腺外科医は私1人だったので、まず教育体制の立ち上げから行いました。講義を英語で行う国際性豊かなカリキュラムに沿った教材を作り上げるため、世界の乳腺外科学について学びました。手術も触診も世界中方法が異なり、術式もさまざま。教材作りを通じて本当に勉強になった1年でした。本学で過ごした年月は、

かけがえのない貴重な時間であり、多くのすぐれた学生や医師、医療スタッフとともに歩むことができましたことを大きな喜びと誇りに感じております。乳腺外科学の発展と人材育成に微力ながら携わることができましたのもひとえに皆様方のご厚情の賜物と深く感謝申し上げます」とあいさつし、大きな拍手とともに閉会となった。

堀口教授は、4月1日付で国際医療福祉大学那須医療センターに着任し、乳腺外科部長として引き続き活躍されている。



●退任のあいさつを述べる堀口教授

医療と消費税に関するシンポジウム ～持続可能な医療提供体制の構築に向けて～ 本学東京赤坂キャンパスにて開催

本学社会保障政策研究所は5月9日、読売新聞社との共催で「医療と消費税に関するシンポジウム～持続可能な医療提供体制の構築に向けて～」を東京赤坂キャンパス講堂で開催した。本シンポジウムは、病院経営を強く圧迫する要因となっている「控除対象外消費税＝損税」の問題を社会保障の政策課題として位置づけ、日本を代表する有識者とともに具体的な解決策と改善の方向性について議論を深めることを目的として開催された。

シンポジウムは「オープニング」「第一部 問題提起」「第一部 総括」「第二部 パネルディスカッション」「指定発言」「閉会挨拶」で構成され、プログラムを通じて多角的な議論が交わされた。

「控除対象外消費税＝損税」問題とは

日本では、病院にかかった際に窓口で支払う診療費には消費税が課されない。この非課税の仕組み、いわゆる「控除対象外消費税＝損税」が、医療機関の経営を大きく圧迫することにつながっている。

一般企業は通常、原材料や設備を購入した際に支払う消費税を、製品やサービスの販売時に受け取る消費税から差し引くことができる。これを「仕入税額控除」というが、保険診療は消費税法上で「非課税」とされているため、病院や診療所は、医療機器、建物、医療材料、光熱費、委託費などの購入時に支払った消費税を控除できない。公定価格である診療報酬の下では、一般企業のような価格への転嫁もできない仕組みだ。

診療報酬に一定額を上乗せすることで補填を行ってきたとする政府だが、その補填は公平であったか、十分に行われてきたか、長年にわたり医療界から疑問が提起されてきた。物価上昇と建設費高騰が続く昨今では特に、高額な設備投資を行う大学病院や高度急性期病院ほど、控除できない消費税が重いコストとして病院経営を圧迫している。このままいけば、医療の質、地域医療の存続、さらには社会保障財源としての消費税の設計にまで問題は及ぶ。

医療界最大の課題の解決に向けた活発な議論



●高木邦格理事長

シンポジウム冒頭、高木邦格理事長は、医療機関における消費税負担を「医療界最大の課題」と位置づけたうえで、1989年の消費税導入時を振り返り、「将来的な税率引き上げを見据えれば課税方式を選ぶべきだと訴えたが、聞き入れられなかった」と当時の経緯を語った。また、「医療界最大の課題である消費税問題は、私の世代できちんと検討し、未来につなげなければならない」と述べ、持続可能な制度設計の必要性を訴えた。

続く第一部の問題提起では、診療報酬による補填方式の限界が主要な論点となった。日本医療法人協会の伊藤伸一会長は、「税の問題は税で処理する必要がある」と述べ、社会保険診療の課税化を提言。日本医師会の今村英仁常任理事も、「地域医療の持続可能性にも影響しかねない問題」と指摘し、設備投資時の消費税負担が病院経営を圧迫している現状に言及した。さらに、国際医療福祉大学の上竹良彦特任教授は、患者側にも「見えない消費税負担」が存在していると分析し、「補填のズレ」と「認識のズレ」が問題の本質だと説明した。

第二部のパネルディスカッションでは、鈴木康裕学長がモデレーターを務め、塩崎恭久元厚生労働大臣らが議論を展開した。鈴木学長は、「医療機関が支払った消費税分をシンプルに還付する仕組みを作るのが望ましい」と提案。矢野康治社会保障政策研究所長も、「医療界が上げるべき声は『おねだり』ではなく、『おかしい』というシュプレヒコールである」と述べ、制度そのものの矛盾を訴えた。



●各界の有識者によるパネルディスカッション

非課税・課税・ゼロ税率の違い

方式	患者・利用者の負担	医療機関の仕入税額控除	制度上の特徴
非課税(現行)	医療サービス自体には消費税を課さない	適用なし。仕入れ時の消費税は医療機関が負担する	患者負担を抑える狙いがある一方、仕入れ時の消費税が医療機関のコストになりやすい
課税	価格に消費税を上乗せするのが原則	適用あり。仕入れ時の消費税を控除できる	税の累積を排除しやすいが、患者負担や診療報酬改定との調整が必要
ゼロ税率	税率は0%のため患者に消費税を転嫁しない		患者負担を増やさず、医療機関の仕入税額負担を解消し得る方式として議論される



●伊藤伸一氏の問題提起



●上竹良彦特任教授の問題提起



●活発な議論が交わされた



●約600人の来場者が集まった



●パネルディスカッション後の質疑応答に参加する高木理事長



●矢野康治所長

また、指定発言では、産業界や大学・行政関係者からも切実な現状が共有された。千葉大学の横手幸太郎学長は、「急速なインフレ転換によって従来の医療提供体制が限界を迎えつつある」と指摘し、大学病院が地域医療と人材育成の双方を担う重要性を強調。JCHOの山本修一理事長も、大学病院時代に補填不足を調査した経験を紹介し、「大学病院では補填が6割程度にとどまっていた」と述べた。閉会にあたり、日本病院会の相澤孝夫会長は、「医療界が一致団結し、『課税・ゼロ税率』を目標に制度改革に取り組むことが重要だ」と呼びかけた。登壇者からは、控除対象外消費税問題は単なる病院経営の問題ではなく、日本の医療提供体制や社会保障制度の持続可能性に関わる国家的課題であるとの認識が共有された。

各登壇者の発言など「医療と消費税に関するシンポジウム」の詳細については、本学ウェブサイトに掲載しています。右のQRコードよりぜひご覧ください。

本学ウェブサイト▶



登壇者

※敬称略

オープニング

高木邦格(学校法人国際医療福祉大学理事長)
安部順一(読売新聞東京本社取締役副社長)

第一部 問題提起

伊藤伸一(日本医療法人協会会長)
今村英仁(日本医師会常任理事)
水谷忠由(厚生労働省医政局総務課長)
上竹良彦(国際医療福祉大学特任教授、元国税庁消費税室長・高松国税局長)
大林尚(国際医療福祉大学特任教授、元日本経済新聞論説委員)

第一部 総括

仁木博文(厚生労働副大臣)
梅村聡(衆議院議員)

第二部 パネルディスカッション

塩崎恭久(元厚生労働大臣)
神野正博(全日本病院協会会長)
堀真奈美(東海大学教授)
仁木博文(厚生労働副大臣)
梅村聡(衆議院議員)
矢野康治(国際医療福祉大学社会保障政策研究所長)

指定発言

瀧口登志夫(キヤノン株式会社副社長)
多田荘一郎(総合メディカルグループ株式会社社長)
横手幸太郎(千葉大学学長)
山本修一(地域医療機能推進機構理事長)
自見英子(参議院議員)

閉会挨拶

相澤孝夫(日本病院会会長)
鈴木康裕(国際医療福祉大学学長)

◆シンポジウム開催にあたり祝電をくださった方々

片山さつき財務大臣
上野賢一郎厚生労働大臣
田村憲久衆議院議員(元厚生労働大臣)



●モデレーターを務めた「鈴木康裕学長

2025年度 国家資格試験結果

2025年度の国家試験結果が発表された。「医師」は合格率98.4%で全国3位(新卒者・既卒者含む)となった。
また、「介護福祉士」で9年連続100%、「保健師」は成田看護学部で7年連続100%を達成した。

資格	キャンパス	合格率
医師	全 国	91.6%
	成 田	98.4% 合格率：全国3位 (既卒者含む)
薬剤師	全 国	68.5%
	大田原	92.5%
	大 川	93.2%
看護師	全 国	88.3%
	大田原	100%
	成 田	96.2%
	小田原	98.8%
保健師	全 国	87.1%
	大田原	91.7%
	成 田	100% 7年連続
	小田原	90.0%
理学療法士	全 国	89.7%
	大田原	100%
	成 田	100%
	小田原	100%
	大 川	100%
作業療法士	全 国	91.2%
	大田原	100% 合格者数：全国1位(69人)
	成 田	100%
	小田原	100%
	大 川	100%

資格	キャンパス	合格率
言語聴覚士	全 国	66.4%
	大田原	89.9% 合格者数：全国1位(62人)
	成 田	97.2%
視能訓練士	全 国	96.1%
	大田原	100% 合格者数：全国2位(50人)
診療放射線技師	全 国	76.2%
	大田原	82.4%
	成 田	92.2%
臨床検査技師	全 国	84.7%
	成 田	97.4%
	大 川	98.5%
社会福祉士	全 国	60.7%
	大田原	82.3%
精神保健福祉士	全 国	78.2%
	大田原	100% 合格者数：全国2位(33人)
介護福祉士	全 国	58.8%
	大田原	100% 9年連続
	成 田	94.4%

※厚生労働省資料より本学調べ。合格者数および合格率の順位は4年制大学(医師、薬剤師は6年制)養成校(通信教育課程除く)における新卒者の順位。医師は既卒者も含む順位。
※全国合格率は全受験者の合格率。
※介護福祉士の全国合格率は介護福祉士養成施設(大学・専門学校)の合格率。

ご寄附のお願い 高い志を持つ医療人を1人でも多く育てるために

開学30周年を迎えた国際医療福祉大学は、ほぼすべての医療福祉専門職を養成することができる数少ない大学のひとつとして、これからも学生の高度な教育・研究のための環境を向上していく所存です。将来の医療福祉分野を牽引する医療人を1人でも多く育てるために、ぜひみなさまからのご寄附をお願いいたします。

Amazonふるさと納税

大田原市・大川市 大学支援事業寄附金について

- 大学支援事業寄附金を指定して、大田原市・大川市にふるさと納税すると、寄附金の95%が大田原市・大川市から国際医療福祉大学に補助金として交付されます。
 - 上限額[※]までは、いくら寄附しても実質負担は2,000円。
 - 大田原市・大川市在住の方でも寄附できます。
- ※上限額は収入や家族構成等によって決まります。

大田原版▼

大川版▼

Amazon
ふるさと納税
サイト



国際医療福祉大学開学30周年記念募金

開学30周年記念募金 募集概要

- 募金名称 国際医療福祉大学開学30周年記念募金
 - 募金目的 大学各キャンパスおよび附属施設の研究環境の充実を図るための以下の資金に充当
 - 学部・大学院研究機能の強化
 - 校舎や運動施設の整備
 - 奨学金の充実
 - 基礎医学の教育研究強化
 - 薬剤師育成に向けた学修環境の充実
 - 募集期間 2023年6月～2026年6月
 - 目標額 30億円
 - 募金金額 個人 1口 10,000円
法人 1口 100,000円
- ※ご寄附は任意でございます。

詳しくはこちら▼

